

平成 24 年 5 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム

平成 24 年 第 4 回講話

今朝の代表幹事の挨拶は「言葉の恐ろしさ」についてお話しくささいました。本人は何気なく出した言葉が、相手に突き刺さる場合がある。本当にその通りだと思います。私自身、友人との会話で胸にぐさっと突き刺さった言葉が 20 年、30 年経っても残っているものがあります。逆に、心が温くなる良い言葉があって、それをずっと温めて、10 年 20 年と心を灯し続けてくれている言葉もあるなと思います。こうやって皆様にお話する時も、言葉はよくよく氣を付けなければいけないと思っています。身に沁みるような良い言葉をお互いが言い合うような関係を夫婦で作ると良いと思いますし、子供との関係もそうだと思います。

健康の秘訣 前向きな思考

社長業をやっておられる方は、55 歳を過ぎると大分体力に翳りが出ます。65 歳を過ぎると社長業がなかなか務まらなくなる。75 歳を超すと、修羅場は肉体的にはちょっと難しきろうと思います。

一昨日、中齋塾の安岡正泰顧問にお会いしました。顧問は、身体がもたないから出張は 2 泊までにして、帰ってきたら 2、3 日は休みを取られると仰っていました。これは 80 歳前後の一つの健康法、生活リズムだと思います。木内信胤先生が 80 代後半の頃に、外泊はしないようにしていると話されていたことを思い出します。70 代、80 代、90 代の先生とお付き合いをすると、皆さま自分なりの健康法を持っておられるし、食事の仕方も氣をつけておられると感じます。

最近、家内に言われて氣が付いたのですが、昔話をするようになりました。昔話をするのは歳をとった証拠だそうです。そういえばと思い当たりましたので、意識して顧問の先生方を見ていると、昔話を一切しません。全部前向きな話、<これからどうする><これから何をやる>という話でした。70 代、80 代、90 代になってもお元氣で頑張っておられる先生方は、皆、将来の話しかしていないことに氣づかされましたので、皆さんにもお伝えしました。

では恒例の質問、まず健康法からお聞きしましょう。

自分の健康法をお持ちの方？

毎日できなければ、2日か3日に一回でもよいし、1週間に一回でもよいのです。

日記をつけておられる方？

日記が駄目なら週記、或いは月記を書く方？

木内顧問の会社の取締役で77歳になられる方が<四かく>を実行されているという話を聞きました。素晴らしいなと思って時々自分自身も見直ししています。

1. 汗をかく・・・これは健康法につながっています。

2. ものを書く・・・日記やブログ等、何でも良いから書いています。そうすると頭が活性化してきます。頭が活性化すると身体も若くなるし、頭も柔らかくなります。

3. 恥をかく・・・自分の知らないものに挑戦する。外国語に挑戦するのも比較的良いと感じます。ちなみに私は今、英会話を勉強中です。これは、昇地三郎先生という105歳の方の講演をお聞きしたのがきっかけです。昇地先生は90歳でロシア語の勉強を始めて、ロシアに行ってロシア語で講演をされたそうです。中国に講演に行った時も、中国語を勉強して出かけられたそうです。90歳を過ぎて外国語を勉強すると、頭がどんどん柔らかくなると言っておられました。

4. 未来を描く・・・先ほど申しましたように顧問の先生方は皆、未来しか描いていません。大体5年先位を考えるのが一番頭の体操に良いですね。

では、お聞きします。

5年先を考えておられる方はどれくらいおられますか？

今、手を挙げた方にお聞きします。

5年先、自分の収入はどれくらいか、仕事の中心は何か、奥様との関係はどうか、趣味はどうか、生活リズムはどうなっているか・・・といったことについて、具体的にリアルに描いておられる方？

・・・お二人いらっしゃいました。

では、いつもの質問を致します。

今月になって、一度も嘘をつかなかった方？

リップサービスとか人の為についた嘘は考えなくてよいと思います。嘘をつかない人生を送っていると、実に良い人生が続いていきます。

今晚寝る時に、明日は良い日が過ごせたなと過去形で考えられると思う方？

大分増えましたね。これが出来ると人生成功の秘訣で、お金で言うと小金持ち、もしくは中金持ちになるそうです。

昨日一日、有難うと言ひ・有難うと言われた方？

昨日一日、良い日だったと思う方？

手を挙げなかった方がおられます。大きい小さいは関係ありません。何か一つでも良いことがあれば、良い日だったと思うことにして下さい。

今日の論語

本日の論語は郷党第十 4～5 です。渋沢栄一先生流に言いますと、この部分は日常生活にあまり役に立たないと思うのでさらっと流して終わりと書いています。私もそう思っていますので、軽くお話致します。

【四】公門こうもんに入るときは、鞠躬きくきゆうじよ如ごとたり、容れられざるが如ごとし。立つときは門もんに中ちゆうせず。行くときは闕しきいを履ふまず。位くらいを過すぐるときは、色いろ勃ぼつ如じよたり、足あし躩かく如じよたり、其その言いうこと足たらざる者ものに似にたり。斉もすを擗そけて堂かうに升のぼるときは、鞠躬きくきゆうじよ如ごとたり、氣きを屏おさめて息いきせざる者ものに似にたり。出いでて一い等つうを降くだるときは、顔がん色しよくを違ちがへて怡い怡じよ如ごとたり。階かいを没つして趨はしり進すすむときは、冀よく如じよたり。其その位くらいに復かえるときは、蹶しよく蹶せき如じよたり。

朝廷での礼儀作法について書いてあります。

(孔子が朝廷に行く時) 宮殿の門に入る時は、身をかがめて狭い所を通るようにそっと入る。門の真ん中は立たない。歩く時は門の闕を踏まないようにする。

君主が決まって座られる場所を通り過ぎる時には、敬い畏れて顔色は変わり、ためらいがちにゆっくり進み、言葉が少なく寡黙になる。

君主のいる堂に登る時には袴の裾を両手で持ちあげて、身をかがめてそっと登ってゆき、拝謁する時には息を殺して呼吸しないかのように見える。

退出する時には緊張を緩めてのびのびして階段を降りる。階段を降りきったら、少し肘をはって恭しく謹みながら小走りで進む。元の位置に戻る時には恭しく座る。

「公門に入るときは、鞠躬如たり、容れられざるが如し。立つときは門に中せず。行くときは闕を履まず」・・・この部分は、日本にもこういう礼儀はありますね。神社仏閣に詣でる時など、自然とそうしていると思います。無意識のうちに日本人の心の中に伝わっている部分です。

ちなみに同じ儒教圏の韓国では、葬儀の時、泣き女や泣き男を頼んで大げさに泣いてもらう風習があります。日本の場合、葬儀では悲しみをひそやかに表します。一つの礼儀作法が日本に伝わった時にはひそやか、中国や韓国では過剰に定着したわけです。それぞれ

の民族性によって変容しているのだと感じます。

【五】圭を執るときは、鞠躬如たり、勝えざるが如し。上ぐるには揖するが如く、下ぐるには授くるが如し。勃如として戦食あり。足踏踏として循うもの有るが如し。亨礼には容色有り。私覲には愉愉如たり。

君主の使いで隣国へ見舞いに行く時の儀礼の心構えの様子です。圭とは玉で作った杓です。

杓を持つ時には、身をかがめて恐れ謹んでそっと持ち上げ、重みに耐えられない様に見える。杓を上げる時には、挨拶するようにそっと持ち上げ、下げる時には相手に授けるような形で行う。

顔色が変わり、恐れおののくように見える。歩幅を短くして、つま先を上げつつすり足で歩いた。

一回目の正式な拝謁の後に、主君からの贈り物を献上する際には、温和で悦ばしく見える。更に緊張した儀式を終えて私的隣国の君主にまみえる時は、ほっと顔がほころんで愉快そうである。

今日の論語は二千数百年前の中国の礼儀作法について話をしていますから、そのまま現代に当てはめることは難しい。我々が論語を読む時には、常に現代に置き換えながら読んでいくと良いし、そのイメージが浮かんでくれば文句ないとお考えください。その中で自分が好きだと思うものを一つ見つければよろしい。

私は渋沢栄一さんの書かれた『論語講義』が好きで、それをベースにお話しています。渋沢栄一さんは論語を読む時に、朱子学ではなく陽明学の立場を採ると明確に述べています。私も陽明学をベースにお話をさせて戴いております。

渋沢栄一さんが『論語講義』を書かれたのは明治時代ですから、明治時代の時代背景が良く出ています。『論語講義』を読むと、明治時代どのように法律が生まれたか、どのように資本主義が形成され、どのように教育制度が生まれたか等々、自然と明治という時代が見えてくる。そういう効果もありますので、『論語講義』をベースにして論語を今の世の中に照らし合わせて分かりやすく解説しようと思っています。

論語を学ぶ時の参考書を選ぶ時、五つの段階があります。第一段階としては、宇野精一先生、金谷治先生、貝塚茂樹先生の論語の解説本を参考に勉強して下さい。人さまにお話

をする時には、この三つを掘り下げて理解していればよろしいでしょう。

次の段階になると、ちょっと違う角度から見たくなる。宮崎市定先生や山本七平先生、穂積重遠先生といった方々の論語の解説が読みたくなります。

それらを卒業すると、第三段階は日本人の歴史的な人物、例えば佐藤一斎や山田方谷、そして安岡正篤先生がどういうふうに論語と相對していたかを見る。

それを終えると、中国に戻って朱子や王陽明はどのように論語を読んだかを見る必要があります。論語の読み方を通じて朱子学が生まれ、科挙制度が出来たわけですが、その時代背景が見えてきます。その朱子学に対して、これは間違っていると悟って王陽明の陽明学が生まれたわけです。第四段階の参考書はそこらへんになります。

最後の段階は、悠々の世界に入りますから、自分の好きなように読む。自分なりの読み方が出来てきます。学者の先生方は自分なりに好きなように読める。論語を自由自在に操れるようになるのです。

皆さんが使っている参考書によって、論語の深度が読み取れます。

今朝の新聞から

時事評論をさせて戴く時のベースは、知識・見識・胆識という一つの判断基準があります。世の中でどういうことが起きているか、色々な情報を仕入れることは知識です。仕入れた知識に、<私はこう思う>という自分の考えを入れて、<自分だったらこうしたい、こうすべきだ>という明確な意思が固まってくると見識になります。そこに実行力が加わってはじめて胆識と言える。知識・見識・胆識という見方で、物事を見るようにします。

もう一つ、ものを見る時には本質・大局・歴史の三点から見る見方があります。知識の部分で色々な情報をとる時にも、本質から考え・大局で考え・歴史から考える、というように複合的に見ないと片手落ちになります。

そういったことを前提条件として、今年は、昨年に引き続いて新聞を読む時の三つの観点として民主党の打つ無様な手・自然災害・国債の動向の三つを申し上げます。

・東京電力

今日の新聞で目に付いたのは東電、電力関係の記事です。電力の小売の自由化が始まる。総括原価方式を廃止するという内容でした。7月2日には関西電力等が15%の節電を始めるとのことです。

電力に関して、まず、日本の電力はどうなっているのか？ 原子力発電はどうなるのか？ 東電に限らず給電体制は一体どうなっているのだろうか？・・・といった見方でよく考える。次に、自分自身に置き換えて考えて、自分が払っている電気料金の払い方はこれでよいの

か？ 電気料金は妥当なのか？ もっと他に電気を賄う方法はないのだろうか？・・・と考えるを進めるわけです。

中斎塾フォーラム顧問の木内孝さんがやっておられる環成経の会員の中から、関西の方で、自前で電力会社を作り売電したいという方が出てこられました。これは非常に良い動きだと思います。私も自給自足をしたいので、電気は自前で賄いたいと思っています。

翻って他の会社はどうか・・・。ヤマダ電機が自前の店舗に太陽光発電の装置を取り付けて売電事業を始めるといふ動きをしています。200 億から 300 億円の投資をして、年間 33 億円くらいの収益を見込んでいるそうです。1 割以上の収益を考えていますから、充分商売として成り立つものと考えていると思います。

以前は、ヤマダ電機とコジマ電機はよく比較をされてライバル関係にありました。これが僅かの年月の間に、ヤマダ電機は巨大化し多角的に色々な仕事を増やした。一方のコジマ電機はビックカメラに買収されました。マクロで見ると、電機業界でライバルとして鎗を削っていた二社がこれだけの差がつくというのは一体何なのか、と考えざるを得ません。

又、東京電力は経営姿勢が良くないが為に今回のような破目に陥っています。東電の耳障りな言葉は「値上げは私どもの権利です」という言い方をします。今時そんなことがあるかと思いますが、これほど考え方が違うというのは、一体どこに原因があるのかと私は考えます。

そうすると何のことはない、経営トップの姿勢にあり。経営者がどう考えているかです。経営者がまともであればその会社は伸びるし、世の中の為にもなる。経営者が悪いと周りを巻き込んで、日本の国を悪い方向へ引きずり落としていく。決して見た目の大きさや売り上げの高ではない。要は、経営理念・経営のあり方の問題だと感じました。

ということで、今朝の新聞を見て、東電の動きとそれに連なるものが少し見えてきました。電気については政府の言うことに従っていたのでは怖い、自前で何とかしなければならぬというところに考えが行きます。つまり知識から、<私はこうしよう>という見識になる。次に実行するかどうかはタイミングで、その時の状況判断がかなり重要です。

・消費税

もう一つ気になった困み記事がありました。新聞が読者に訴えたいものは一面に大きく載りますから、否が応でも目に入ります。と同時に、小さい困み記事にも目を留める必要があります。

今日、気になった小さい記事は、ドイツではハンバーガーを店で食べると 19%の税金がかかるけれども、店で食べずに持ち帰ると 7%になるという記事です。日本は消費税を 2014 年 4 月に 8%に、2015 年 10 月には 10%に上げるという方向で進んでいます。日本は他の国

と比べて消費税が安いのだと政府が宣伝していますから、何となくそう思われているけれども、果たして本当だろうか？ と考える必要がある。消費税の対応は国によって違いますし、物によっても違います。フランスではチョコレートに 19.6%の税金がかかっていますが、一般庶民が食べる板チョコは5.5%の税金だそうです。日本でもデパートで売っているチョコレートとスーパーで売っているチョコレートは物も値段も違います。ですから売っている店によって税金が違ってもおかしくはないと思います。日本の場合、消費税はすべて一律ですが、諸外国では生活必需品の税金は非常に安くするか、ゼロという国が多い。

それに対して今の政府は何をしているのか考えると、野田内閣は小手先細工をよく弄すると思います。細かく申し上げると、年収 300 万くらいの人の場合は、生活必需品を買った時の消費税分は所得税控除をする。年収 200 万以下の人については、足が出るだろうから現金で返す、という流れになっているようです。まさに朝三暮四です。野田政権は色々なテクニックを弄して、何となく“それならいいかな”と思わせるような方向に進んでいるなと感じます。

今回の野田政権の消費税の対応によって、大金持ちはさらに大金持ちになり、中金持ちや小金持ちは消え始める。出てくるのは、年収 200 万 300 万の層が増える。中流階級から低所得者層へのなだれ現象がおき始めるであろうと感じます。ここ 2、3 年の間にそういう動きが出てくる。今、所得の二極分化が始まってきていますが、それが更に加速するだろうと思います。それは消費税の扱い方によって変わる。

その引き金を引くのは国民の共通番号制度だと思います。今、民主党は大変なお金をかけて宙に浮いた年金を調べていますが、調べてもどうにもなるはずがない。偽名で年金を取得していたり、偽名で社会保険をかけるといったことが簡単に出来る甘ったるい状況に、今の日本はなっていると思います。政府・官僚は税金を間違いなくとるために国民の共通番号制度などと、あの手この手を使ってやっているのです。共通番号制度と聞くと嫌だと感じますが、すでに住民基本台帳で誰でも番号がつけられているのです。ただそれを納得していないだけです。

政府は 2015 年 4 月に共通番号制を定着させるということで、錦の御旗を振るのだと思います。ですからもうすぐ目の前です。共通番号制が出来て、先ほど申しました消費税分を控除するということが始まった時には、高所得層と低所得層が明確に分かれてしまう時期になると思います。日本が坂道を転げ落ちる仕上げが、そこらへんに来るだろうと思います。そうなった時には、今の官僚・政治家は全部ひっくり返ってチャラになる。国民皆が塗炭の苦しみを経たところで、やっと日本の国力が上向きになっていくのだろうと私は考

えています。

今朝の新聞の囲み記事、ドイツのハンバーガーとフランスのチョコレートにかかる税金の記事（知識）から、今の日本のおかれている消費税の状況を考える。その消費税を何故官僚が導入したがつているのか？ 野田政権は何故それに乗っかって動いているのか？ それはどういう方向に進んでいくのか？ 成功するとしたら何時頃か？・・・と、自分なりの考えをもっていくのが見識です。更に、自分はどのような行動をとるべきかを考えて、成案を以って実行するところで胆識になります。

色々な新聞記事やニュースを見たら、さらっと流すのではなく、自分の心の深いところまで一度入れてよく咀嚼する。自分なりに納得する・腑に落ちるところまで考えておくと、それを活用と思った時にずっと出てきます。

これは木内信胤先生の言われた総合的直観力と同じです。総合的直観力を身に付けるには、色々なものをよく読んで、それを知識として自分の中に入れる。自分の中に入れたなら、それを掘り下げて納得の行くところまで考え抜く。それによって知識が自分のものになります。

・石原都知事の動き

石原都知事が日本維新の会を6月に発足させたいとの記事が出ていました。石原さんは最近、物議を醸しています。石原さんは息子さんが自民党の幹事長ですから、将来総理大臣になるかもしれない。だからあまり自民党には手をつけたくないのだと喧伝されています。たしかにそういう考えがないとはいえないでしょう。しかし、自分自身にも総理大臣の芽があるわけです。どうも、国政に出た方は能力あるなしにかかわらず、やはり総理大臣になりたいようです。いわんや石原さんも目指さないはずはないだろうと思います。

石原さんが日本維新の会を立ち上げて、橋下さんの大阪維新の会と合体し国政にそれなりの人員を送り込むことが出来れば、細川さんと同じように第三極をつくって総理大臣になることは夢ではない。自信を深めたのは今回の尖閣諸島購入の話です。尖閣諸島を東京都が買うと言った途端、7億円くらい寄付が集まっているそうですから、勇気百倍ですね。言い方を変えると、これは今の国政に対して東京都民は怒っているということが如実に表れています。ならば石原さんは、ご自分で総理大臣になりたいと思うでしょうし、尖閣諸島の話は立候補宣言のようなものだと感じます。

石原さんの総理大臣への動きについて、本質で考えると、石原さんの腹の中を見れば総理大臣になりたい。又、日本の国もならせようとしていると感じます。

大局的に見ると、中国の立場、アメリカの立場、ヨーロッパの立場、諸外国それぞれの人脈を睨みながら、今回オリンピックに立候補し人脈を広げるという意味において、日本

の国の総理大臣としての顔売り方、ここら辺も踏まえていると見えます。色々な立場から見ても、石原さん待望論を作ろうとしているように見えます。

歴史から見ても、石原さんが昔やっていた青嵐会や政治家としての行動の軌跡を考えると、総理大臣になる野望は充分にあり得ると感じます。又、小説家としての作品を考えると、日本の国を動かすポストに就いたなら・・・という小説も書いています。

日本の国は今、どこがどうなるか訳の分からない状況になっています。ほんのちょっとした風の吹き具合でいくらでも変わると思っています。ならば、仮に石原さんが総理大臣になったらどうか？ 石原さんの腹の中を見つつ、日本の国をどう引っ張っていくだろうか？ どういう政策を打つだろうか？・・・ということを思いました。

今日の時事評論は、新聞記事からそれを本質・大局・歴史の観点で見たらどうなのか。知識・見識・胆識で、胆識に持っていくまでの見識をどうやって作っていくか、具体的な話をさせて戴きました。

本日の講話は以上です。有難うございました。